

白藍塾オリジナル

2016入試小論文分析&解答のヒント

2016年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・経済学部

説明問題+論述問題の2本立てで、慶応・経済学部では王道のパターンだ。

課題文は、テレビ番組『白熱教室』で有名になったアメリカの哲学者マイケル・サンデルの文章。一見すると難しく思えるかもしれないが、じっくり読めばそれほど難しい内容ではない。「リベラルな自由」と「共和主義的な自由」を対比して、経済政策も共和主義的な考え方を踏まえて議論すべきだ、ということを暗に主張している。

設問Aは、「共和主義的政治理論の自由」を「リベラルな自由」と対比しながら説明する問題。単純化して言うと、「リベラルな自由」とは、「個人は自分の価値観に従って生き方を選ぶことができ、政府はそれに口出しすべきでない」という考え方。それに対して、「共和主義的な自由」とは、「自由を実現するためには、すべての国民が社会参加し、共通の道徳を持たなければならない」とするもの。後者の考え方では、政府がある程度国民の生き方に干渉する必要が出てくるわけだ。そうしたことを、字数に合わせてまとめればよい。

設問Bは、「次世代のために現役世代がコストを払うことは、自由と矛盾しないのか」と問いかけている。

例に挙げられている地球温暖化防止対策では、温暖化をこれ以上進めないために、温室効果ガスの排出量の削減が取り決められている。つまり、次世代のために、石油などの資源を自由に使えないようにしているわけだ。こうした状況が「自由」の考え方と矛盾しないかどうか問われている。

常識的に考えて、こうした状況は「リベラルな自由」とは矛盾するが、「共和主義的な自由」とは矛盾しないだろう。したがって、基本型Aを使って、最初に「こうした状況は、共和主義的な自由とは必ずしも矛盾しない」とずばり示した上で、なぜそう言えるのかをくわしく説明するとよい。「自己統治、道徳などに触れながら」とあるので、たとえば「次世代のためには、現役世代が共通の道徳によって自己統治をすることが必要」などのように説明すれば、うまくかみ合うはずだ。

課題文が理解できさえすれば、あとは論理的に考えれば答えられる問題なので、しっかりと準備してきた受験生にとっては、それほど難しい問題とは言えないだろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>